



「言葉による見方・考え方」を働かせ「資質・能力」を育成する単元構想—「深い学び」の鍵—

【小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編P.11-12】
 1 教科の目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する**資質・能力を育成**することを目指す。…中略…
言葉による見方・考え方を働かせるとは、児童が学習の中で、**対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること**であると考えられる。

国語科の「お願い」と「お礼」の手紙を書く学習を単元として構想するために、社会科との教科横断的な視点での単元構想を行った。社会科で高知県内のさまざまな市町村のおすめを紹介するために、国語科で資料や情報を送ってもらうように「お願い」の手紙を書き、頂いた資料でリーフレットを作成し、活動のまとめに「お礼」の手紙を書くように単元を構想した。

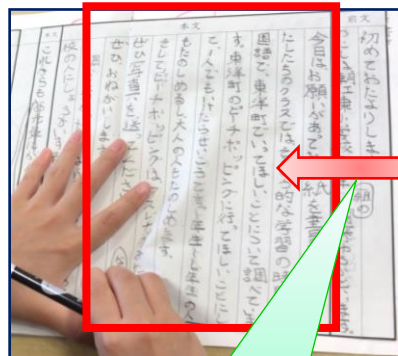
2回「手紙を書く」という言語活動を設定するに当たって、以下の二点を留意点とした。
 ① **実用的な文章**である「手紙」の学習は、小学校では2年生から始まり、4年生で一旦完結する。次に学習するのは、中学校2年生になってからという系統にある。そこで、小学校での実用的文章である「手紙」を書く学習の仕上げとして、これまでのように身近な人や地域の方ではなく、顔も知らない会ったこともない、かつ、**オフィシャルな相手に「手紙」を書くという社会につながる設定**とした。

② 4年生は、これまでのように一方的に届ける手紙ではなく、「お願い—返事—お礼」と学習がつながっており、相手との**やり取りが重要**になってくる。そこで、単元全体でも本時でも、相手の方から「返事をもらえるにはどのように書いたらよいか」ということを常に**相手・目的意識**において、書くことに取り組んだ。

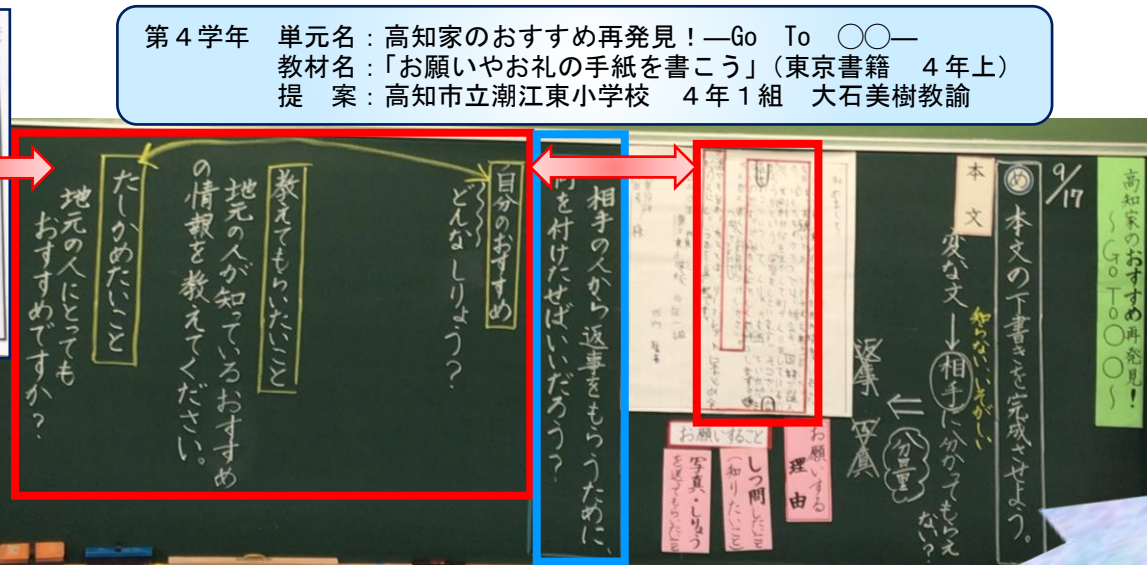
教科書教材から掴んだ手紙の本文で「お願いすること」と、自分が書いた下書きの本文を**比較し**、相手をお願いすることが伝わるために、必要なことが書けているか**吟味・検討**する

教科書教材の「お願いの手紙」の本文に書かれた内容と、自分たちが書こうとする**お願いの手紙に必要な内容とを関係付け**、自分たちの手紙の本文に必要な事柄を考える

「手紙」と他の伝達媒体のよさを**比較し**、自分たちの**目的と関係付け**、最適の言語活動を判断する



児童が書いた不十分モデルから、相手からの返事や資料をもらうために何を付け足せばよいか**見直しをする**視点を見付け、自分の下書きを見直して仕上げる



第4学年 単元名：高知家のおすめ再発見！—Go To OOO—
 教材名：「お願いやお礼の手紙を書こう」（東京書籍 4年上）
 提案：高知市立潮江東小学校 4年1組 大石美樹教諭

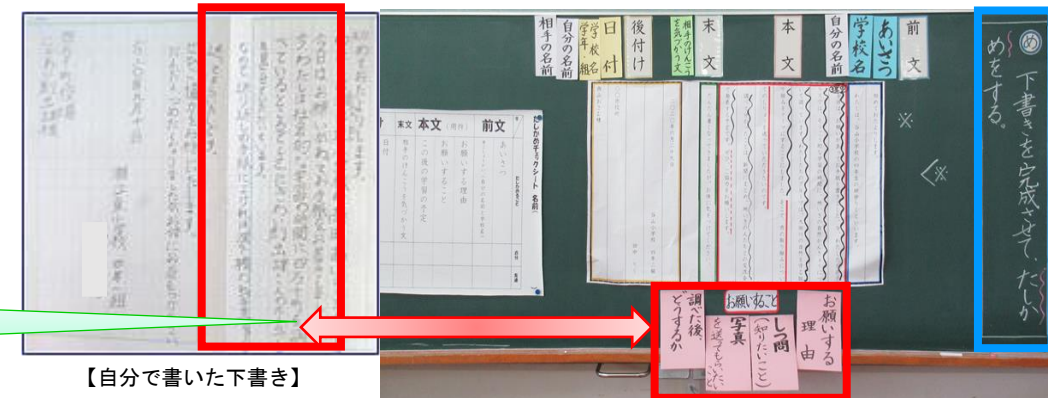
四時間目・本時

単元で育成したい「資質・能力」

【学びに向かう力、人間性等】
 ○伝えたいことを相手に伝えることができる手紙のよさに気づき、目的に合わせて相手の心を動かすことができる**お願いやお礼の手紙**を書いて伝えようとする力

【知識及び技能】
 (1) キ言葉遣い
 ○丁寧な言葉を使うとともに、敬遠に注意しなが**ら書くことができる力**

【思考力、判断力、表現力等】
 B書くこと イ構成の検討
 ○書く内容の中心を明確にし、手紙の形式に沿って構成を考**えることができる力**
 B書くこと エ推敲
 ○書く相手や目的に照らして、構成や書き表し方が適切かど**うかを確かめることができる力**

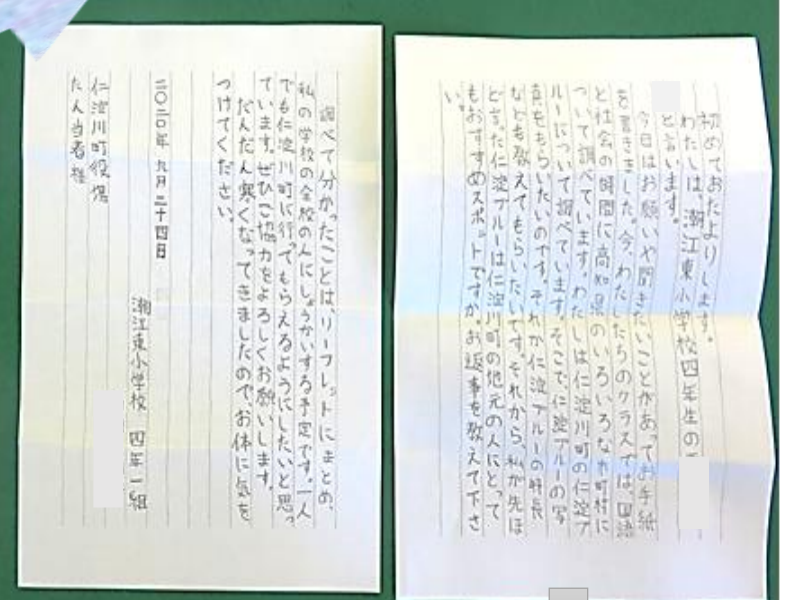


【自分で書いた下書き】



三時間目

【「書写」の時間とカリ・マネした手紙の清書指導】



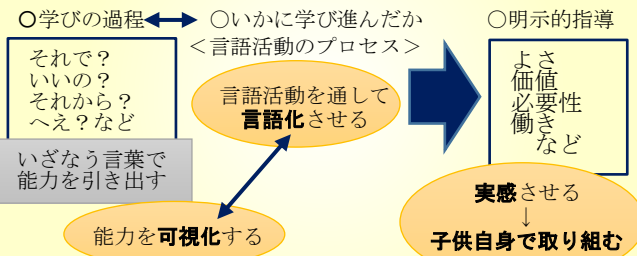
【実際に書いて送ったお願いの手紙】

【明示的指導の可視化を繰り返す】
 子供たちが、授業において「言葉による見方・考え方」を働かせて成長を実感的につかんでいくためには、その**動きや必要性やよさなどを板書に可視化**させて指導することを繰り返すことが重要！

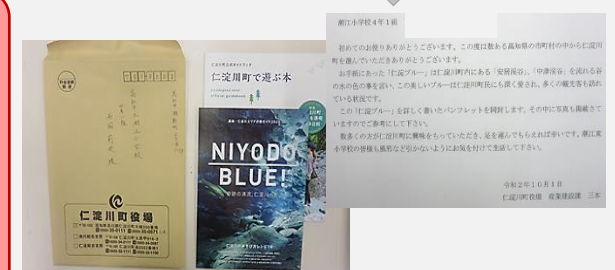
授業者の感想【大石美樹教諭】

○ 子供たちの「言葉による見方・考え方」を鍛えるために、授業者は意図的に文章と文章を「**比較」「整理**」するなどして**関係付けたり吟味・検討し合ったり**して、着眼点を明確にすることが必要である。そして、それが可視化できるよう、板書にも**関係性を示す**ように心掛けた。（カード化・矢印・表など）
 ★ 「書く」活動は、子供たちにとって根拠のある学習であり、個人の書く力や意欲の差も大きい領域である。まず、「これではまだだめだ」「もっと～したい」と子供自身が気づき**困り感をもつ場**を設定し、「書く」目的や必要性を明確にする必要があった。また、毎時間、書くものが仕上がっていく実感・自分の書く力が高まっていっている実感を**メタ認知**できるようにBefore⇔Afterの変容の示し方が弱かった。変容が、一目で見える板書・ノートの可視化も工夫する必要があった。

子供の学びを少しずつ子供に任せていく**授業づくり**—子供に任せていくプロセス・手段を用意する—



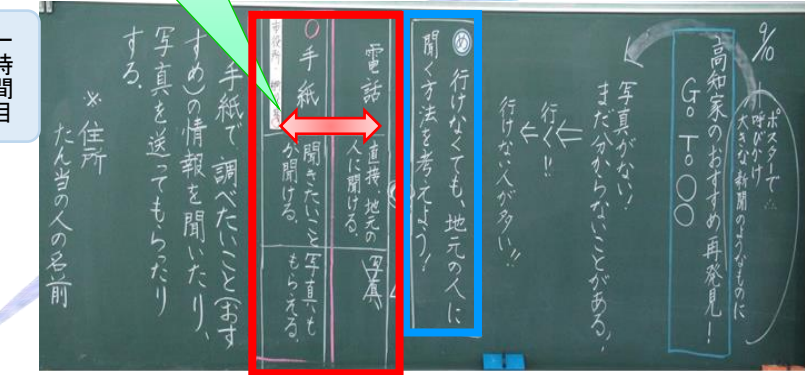
【言語活動が学びのエンジンとなる】
 子供たちが自ら学ぼうとするエンジンとなる。回すために、言語活動が**社会生活とリアルにつながり、実現可能である**ことに留意した！



【実際に送って頂いた手紙や資料】

送って頂いた資料は、国語科の『ふるさとのおたから』を伝えようのリーフレット作成に活用

作成したリーフレットも入れて「お礼」の手紙を書く



一時間目